

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	藤女子大学
設置者名	学校法人 藤学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計				
文学部	英語文化学科	夜・通信	195	2	2	1	0	200	13	
	日本語・日本文学科	夜・通信					2	202	13	
	文化総合学科	夜・通信					8	208	13	
人間生活学部	人間生活学科	夜・通信			5	2	90	296	13	
	食物栄養学科	夜・通信					89	293	13	
	子ども教育学科	夜・通信					57	257	13	
(備考)										

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページの情報公開「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項に基づく公表」に「実務経験のある教員による授業科目一覧」を公表している。 https://www.fujijoshi.ac.jp/uploads/files/main/guide/pr_activities/periodical/list_course_subjects.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	藤女子大学
設置者名	学校法人 藤学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事幹事名簿を学校法人藤学園のHPで公表している。
<https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/criteria/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人天使大学学長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教学事項に関する提言等
非常勤	クラーク記念国際高等学校校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教学事項・高大接続等に関する提言等
(備考) 本学園寄附行為に学外者である理事を複数名置くことを定めている。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	藤女子大学
設置者名	学校法人 藤学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、教務部委員会にてシラバス作成要領を作成し、シラバスを作成する非常勤講師を含めた全教員に配付し、統一したシラバスの記載方法について周知し、作成している。</p> <p>シラバスの記載内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブタイトル (一部記載なし) ・授業のねらい ・到達目標 ・授業方法 ・事前事後学修 ・授業計画 ・成績評価の方法 ・フィードバックの方法 ・履修にあたっての注意 ・教科書、参考書 ・参考ホームページ <p>である。</p> <p>12月から3月中旬までに作成し、3月下旬から大学ホームページから公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページ 教育支援「シラバス」</p> <p>https://www.fuji-joshi.ac.jp/support/syllabus</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

履修方法及び卒業要件は、学則第4章第18条から第21条までと別表第6及び別表第7に定めている。

各科目のシラバスに成績評価の方法を明示し、それに基づいた方法にて評価を行っている。

91点以上=A+、90～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Fとし、60点以上を合格とする。

成績評価基準は、次表をもとにしている。

文学部

	点数	評価	基準
合格	100～91	A+	授業の到達目標を完全に満たしているかまたは超えている
	90～80	A	授業の到達目標を十分に満たしている
	79～70	B	授業の到達目標を満たしている
	69～60	C	授業の到達目標を最低限度満たしている
	-	認定	点数による評価を行わず単位認定のみとするもの
不合格	59～0	F	授業の到達目標を満たしていない
	-	不認定	単位認定の基準を満たしていない。(点数による評価を行わない科目)
放棄	-	放棄	試験を欠席(レポートを未提出)し、追試験の願い出がない。欠席が1/3を超えている。

※ 2018年度以降入学生においては、大学共通科目「女性とキャリアⅠ」「女性とキャリアⅡ」、外国語科目「留学事前セミナー」「留学事後セミナー」、日本語・日本文学科の学科共通プログラム科目、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 不合格、放棄の成績は、成績証明書には表記しない。

人間生活学部

	点数	評価	基準
合格	100～91	A+	授業の到達目標を完全に満たしているかまたは超えている
	90～80	A	授業の到達目標を十分に満たしている
	79～70	B	授業の到達目標を満たしている
	69～60	C	授業の到達目標を最低限度満たしている
	-	認定	点数による評価を行わず単位認定のみとするもの
不合格	59～0	F	授業の到達目標を満たしていない
	-	不認定	単位認定の基準を満たしていない。(点数による評価を行わない科目)
放棄	-	放棄	試験を欠席(レポートを未提出)し、追試験の願い出がない。欠席が1/3を超えている。

※ 大学共通科目「女性とキャリアⅠ」、食物栄養学科専門科目「臨床栄養学実習Ⅲ」「公衆栄養学実習」「給食経営管理実習Ⅱ」「管理栄養士実務実習」、子ども教育学科専門科目「教育実習(幼稚園・小学校)」「教育実習(特別支援)」「児童館実習」「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(保育所)」「保育実習Ⅱ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(児童館)」、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 不合格・放棄の成績は、成績証明書には表記しない。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAは成績評価A+=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、F=0、放棄=0として、次の計算式にて計算する。</p> $\{(4.0 \times A\text{の修得単位数}) + (3.0 \times A\text{の修得単位数}) + (2.0 \times B\text{の修得単位数}) + (1.0 \times C\text{の修得単位数})\} / \text{履修登録総単位数 (不合格・放棄の単位数を含む)}$ <p>GPAの計算方法については、教務ガイドに示すとともに、新入生に関しては入学時のオリエンテーションの教務指導で説明を行っている。各学生のGPAは、前期及び後期の成績発表の際に、成績とともに学生に通知する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学ホームページ情報公開「教務ガイド」2023年度入学生用 ・文学部 88 ページ https://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/kyomu_guide/2023/pdf/fu_kyomu079-093.pdf ・人間生活学部 105 ページ https://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/kyomu_guide/2023/pdf/fu_kyomu094-108.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)を大学、学科ごとに策定し、教務ガイドに記載し学生には新入生対象の新年度オリエンテーションの教務指導で周知するとともに、大学ホームページに公表している。</p> <p>卒業に必要な単位数は、文学部英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科については124単位、人間生活学部は、人間生活学科127単位、食物栄養学科130単位、子ども教育学科127単位と設定しており、その単位取得方法の詳細は、学則別表6及び第7に定めている。</p> <p>3月初旬に成績発表を行い、3月中旬の教授会で卒業判定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページ 3つのポリシー「ディプロマ・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	藤女子大学
設置者名	学校法人 藤学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/report/
収支計算書又は損益計算書	ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/report/
財産目録	ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/report/
事業報告書	ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/report/
監事による監査報告(書)	ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/hojin/disclosure/report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/uploads/files/main/guide/jikotenken_hyoka/activity_status_2022.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ「学部・学科の教育目的」文学部 https://www.fujijoshi.ac.jp/guide/rinen/faculty ）
（概要） 建学の理念である「キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成」を実現するため、文学部は、人文・社会に関する諸分野の教育を通じて、広く、深い知識と鋭敏な感性とを自らのものとし、地域社会のみならずより広範な社会環境において多角的な視野のもとで多様な課題に主体的に取り組み、社会に貢献できる女性を育てることを目的とする。さらに学科ごとに教育目的を定めている。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「ディプロマ・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
（概要） ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を大学、学科ごとに策定し、教務ガイドに記載し学生には新入生対象の新年度オリエンテーションの教務指導で周知するとともに、大学ホームページに公表している。 卒業に必要な単位数は、文学部英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科については 124 単位と設定しており、その単位取得方法の詳細は、学則別表第 6 に定めている。 3 月初旬に成績発表を行い、3 月中旬の教授会で卒業判定を行っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「カリキュラム・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
（概要） 教養科目・外国語、学科ごとのカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めている。内容は、カリキュラムの体系性・順次性、教養・外国語教育、専門教育、キャリア教育、学修の方法と評価についてである。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「アドミッション・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
（概要） 本学のアドミッション・ポリシーは、大学全体としての教育理念と教育目的の下に、求める学生像として、「自分に備わった資質を磨き、さらに人間として成長しようと努力する人」「学問の探求に励み、知的好奇心を満たそうと努力する人」「現代社会の諸問題に関心を持ち、さらに視野を広げようと努力する人」「他者への思いやりを持ち社会や環境に貢献しようと努力する人」の四つを掲げたうえで、文学部の各学科（英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科）それぞれで「学科のめざしているもの」「学科が求める人材」「高等学校で学んできてほしいこと」「アドミッション・ポリシーに基づく入試方法」について具体的に説明している。これらについては、ホームページに広く公表するとともに、入試要項等に掲載して、受験生等への周知を図っている。

学部等名 人間生活学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ「学部・学科の教育目的」人間生活学部 https://www.fujijoshi.ac.jp/guide/rinen/faculty ）
<p>（概要）</p> <p>建学の理念である「キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成」を実現するため、人間生活学部は、生命及び人間の尊厳と個人の多様な生き方を尊重し、他者と共存しつつ自立した生活を送り、人間と社会及び自然の相互関係に対する洞察に基づいて、多様化・複雑化してゆく生活の諸課題に責任を持って対処し、国際関係を越えた地球的視野から生活の諸問題を実践的に対処することのできる女性を育てることを目的とする。さらに学科ごとに教育目的を定めている。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「ディプロマ・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
<p>（概要）</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を大学、学科ごとに策定し、教務ガイドに記載し学生には新入生対象の新年度オリエンテーションの教務指導で周知するとともに、大学ホームページに公表している。</p> <p>卒業に必要な単位数は、人間生活学部は、人間生活学科 127 単位、食物栄養学科 130 単位、子ども教育学科 127 単位と設定しており、その単位取得方法の詳細は、学則別表第7に定めている。</p> <p>3月初旬に成績発表を行い、3月中旬の教授会で卒業判定を行っている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「カリキュラム・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
<p>（概要）</p> <p>教養科目・外国語、学科ごとのカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めている。内容は、カリキュラムの体系的・順次性、教養・外国語教育、専門教育、キャリア教育、学修の方法と評価についてである。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ 3つのポリシー「アドミッション・ポリシー」 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept/policy ）
<p>（概要）</p> <p>本学のアドミッション・ポリシーは、大学全体としての教育理念と教育目的の下に、求める学生像として、「自分に備わった資質を磨き、さらに人間として成長しようと努力する人」「学問の探求に励み、知的好奇心を満たそうと努力する人」「現代社会の諸問題に関心を持ち、さらに視野を広げようと努力する人」「他者への思いやりを持ち社会や環境に貢献しようと努力する人」の四つを掲げたうえで、人間生活学部の各学科（人間生活学科、食物栄養学科、子ども教育学科）それぞれで「学科のめざしているもの」「学科が求める人材」「高等学校で学んできてほしいこと」「アドミッション・ポリシーに基づく入試方法」について具体的に説明している。これらについては、ホームページに広く公表するとともに、入試要項等に掲載して、受験生等への周知を図っている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページに公表 https://www.fujijoshi.ac.jp/dept

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	21人	11人	4人	0人	0人	36人
人間生活学部	—	22人	11人	4人	0人	5人	42人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			265人				265人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページに公表 https://www.acoffice.jp/fwuhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	270人	198人	73.3%	1020人	1052人	103.1%	若干名	1人
人間生活学部	210人	155人	73.8%	900人	721人	80.1%	若干名	0人
合計	480人	353人	73.5%	1920人	1773人	92.3%	若干名	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	274人 (100%)	2人 (0.7%)	238人 (86.9%)	34人 (12.4%)
人間生活学部	198人 (100%)	6人 (3.0%)	180人 (90.9%)	12人 (6.1%)
合計	472人 (100%)	8人 (1.7%)	418人 (88.6%)	46人 (9.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
北海道大学大学院 藤女子大学大学院 / 北海道セキスイハイム ブルドックソース 北海道電力 NTTドコモ AIRDO ナイキジャパン ニトリ 日本銀行 北海道銀行 東京海上日動火災保険 札幌駅総合開発 ホテルモントレ 日清医療食品 手稲溪仁会病院 北海道農業団体健康保険組合 高齢・障害・求職者雇用支援機構 北海道カトリック学園 北海道教育委員会 北海道 札幌市				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスは、教務部委員会にてシラバス作成要領を作成し、非常勤講師を含めた全教員に配付し、統一したシラバスの記載方法について周知し、作成している。</p> <p>シラバスの記載内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブタイトル（一部記載なし） ・授業のねらい ・到達目標 ・授業方法 ・事前事後学修 ・授業計画 ・成績評価の方法 ・フィードバックの方法 ・履修にあたっての注意 ・教科書、参考書 ・参考ホームページ <p>である。</p> <p>12月から3月中旬までに作成し、3月下旬から公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>履修方法及び卒業要件は、学則第4章第18条から第21条までと別表第6及び別表第7に定めている。</p> <p>各科目のシラバスに成績評価の方法を明示し、それに基づいた方法にて評価を行っている。</p> <p>91点以上=A+、90～80点=A、79～70点=B、69～60点=C、59点以下=Fとし、60点以上を合格とする。</p> <p>成績評価基準は、次表をもとにしている。</p>
--

文学部

	点数	評価	基準
合格	100～91	A+	授業の到達目標を完全に満たしているかまたは超えている
	90～80	A	授業の到達目標を十分に満たしている
	79～70	B	授業の到達目標を満たしている
	69～60	C	授業の到達目標を最低限度満たしている
	—	認定	点数による評価を行わず単位認定のみとするもの
不合格	59～0	F	授業の到達目標を満たしていない
	—	不認定	単位認定の基準を満たしていない。(点数による評価を行わない科目)
放棄	—	放棄	試験を欠席(レポートを未提出)し、追試験の願い出がない。欠席が1/3を超えている。

※ 2018年度以降入学生においては、大学共通科目「女性とキャリアⅠ」「女性とキャリアⅡ」、外国語科目「留学事前セミナー」「留学事後セミナー」、日本語・日本文学科の学科共通プログラム科目、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 不合格、放棄の成績は、成績証明書には表記しない。

人間生活学部

	点数	評価	基準
合格	100～91	A+	授業の到達目標を完全に満たしているかまたは超えている
	90～80	A	授業の到達目標を十分に満たしている
	79～70	B	授業の到達目標を満たしている
	69～60	C	授業の到達目標を最低限度満たしている
	—	認定	点数による評価を行わず単位認定のみとするもの
不合格	59～0	F	授業の到達目標を満たしていない
	—	不認定	単位認定の基準を満たしていない。(点数による評価を行わない科目)
放棄	—	放棄	試験を欠席(レポートを未提出)し、追試験の願い出がない。欠席が1/3を超えている。

※ 大学共通科目「女性とキャリアⅠ」、食物栄養学科専門科目「臨床栄養学実習Ⅲ」「公衆栄養学実習」「給食経営管理実習Ⅱ」「管理栄養士実務実習」、子ども教育学科専門科目「教育実習(幼稚園・小学校)」「教育実習(特別支援)」「児童館実習」「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(保育所)」「保育実習Ⅱ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(児童館)」、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 不合格・放棄の成績は、成績証明書には表記しない。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	英語文化学科	124 単位	○・無	1 年次 44 単位 2～4 年次 48 単位
	日本語・日本文学科	124 単位	○・無	48 単位
	文化総合学科	124 単位	○・無	48 単位
人間生活学部 文学部	人間生活学科	127 単位	○・無	49 単位
	食物栄養学科	130 単位	○・無	49 単位
	子ども教育学科	127 単位	○・無	49 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページに公表
https://www.fujijoshi.ac.jp/uploads/files/main/guide/pr_activities/periodical/premises.pdf
<https://www.fujijoshi.ac.jp/guide/access/panorama/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	英語文化学科 1年次	706,000円	210,000円	175,460円	
	英語文化学科 2、3年次	736,000円	-円	170,000円	2年次のみ実習費 5,460円
	英語文化学科 4年次	736,000円	-円	170,000円	
	日本語・日本文 学科1年次	706,000円	210,000円	170,000円	
	日本語・日本文 学科2、3、4年 次	736,000円	-円	170,000円	
	文化総合学科 1年次	706,000円	210,000円	170,000円	
	文化総合学科 2、3、4年次	736,000円	-円	170,000円	
人間生 活学部	人間生活学科 1年次	738,000円	210,000円	190,000円	
	人間生活学科 2、3、4年次	768,000円	-円	190,000円	2年次以降選択科目履修状況により、実験・実習費 3,000円～136,500円 (3年間合計額)
	食物栄養学科 1年次	768,000円	210,000円	230,000円	
	食物栄養学科 2、3年次	798,000円	-円	210,000円	2年次実験・実習費 30,577円、 3年次同 64,000円～105,100円
	食物栄養学科 4年次	798,000円	-円	210,000円	実験・実習費 0円～53,000円
	子ども教育学科 1年次	750,000円	210,000円	200,000円	
	子ども教育学科 2年次	780,000円	-円	200,000円	選択科目実習費 0円～12,000円
	子ども教育学科 3年次	780,000円	-円	200,000円	選択科目実習費 0円～23,000円
	子ども教育学科 4年次	780,000円	-円	200,000円	選択科目実習費 0円～62,000円

※1 教職課程履修者(保育学科を除く)は、3年次介護等体験 10,000円、4年次教育実習事務費 7,000円

※2 図書館情報学課程履修者は、司書を選択した場合 50,000円、司書教諭を選択した場合 30,000円

※3 日本語教員養成課程履修者は、履修費 30,000円

※4 入学時には上記の他、同窓会等からの委託徴収金として 15,660円、卒業時には同窓会終身会費として 20,000円を納付

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 本学の学生の修学を支援する組織は、専任教職員で構成する教務部委員会が主となって行っている。入学時には、学生に配布する「教務ガイド」(ホームページにも公開)等により、大学での学びの基礎的な知識等を指導するほか、履修登録時期には、教務課職員による個別相談に加えて、各学科の専任教職員による履修相談会を実施するなど細やかな支援体制を取っている。担任制により、日常的な学生の個別相談・支援を行っており、また、2023年度1年生から各学科とも専任教職員がアカデミックアドバイザーとして、10人前後の学生を担当して学生一人ひとりに寄り添った支援体制を敷いている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 正課内外を通じて卒業後のキャリア形成を支援することを目的とし、キャリア支援センターを設置している。正課では、1年次に全学共通教養科目「女性とキャリアⅠ」(必修)、2年次に「女性とキャリアⅡ」(選択)を開講。専任教職員による授業計画の下、社会で活躍する卒業生等を講師とするなど、学生の自律的な意識形成を図っている。正課外では、進路選択に係る各種セミナー、専任職員による個別相談に注力。学生個々の事情に合わせ参加出来るよう、対面・Webの両方で行っている。その他、就職支援システムを利用した求人情報の提供等、多様な取組により学生のキャリア形成を支援している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学生の心身の健康を保持するため、北16条・花川両校舎に保健センターを設置し、医師である保健センター長の下に常勤の保健師を配置して、学生・教職員の健康増進に努めている。また、特にメンタル面での相談については、学生相談室を置いて、臨床心理士をカウンセラーとして、学生生活上の様々な相談に対応できる体制を整えている。</p> <p>校舎等の施設はバリアフリー化が図られており、ハンディキャップのある学生については、個別の状況に応じて、教職員と学生が、必要とされるサポートを行う体制としている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：本学ホームページに公表。 https://www.fujijoshi.ac.jp/guide/public-info/</p>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F101310100178
学校名	藤女子大学
設置者名	藤学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		204人	208人	208人
内 訳	第Ⅰ区分	112人	112人	
	第Ⅱ区分	52人	52人	
	第Ⅲ区分	25人	28人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				208人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	23人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	24人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。